

エネルギー供給の動向

8月の原油調達、サウジ首位復帰と新たな供給先

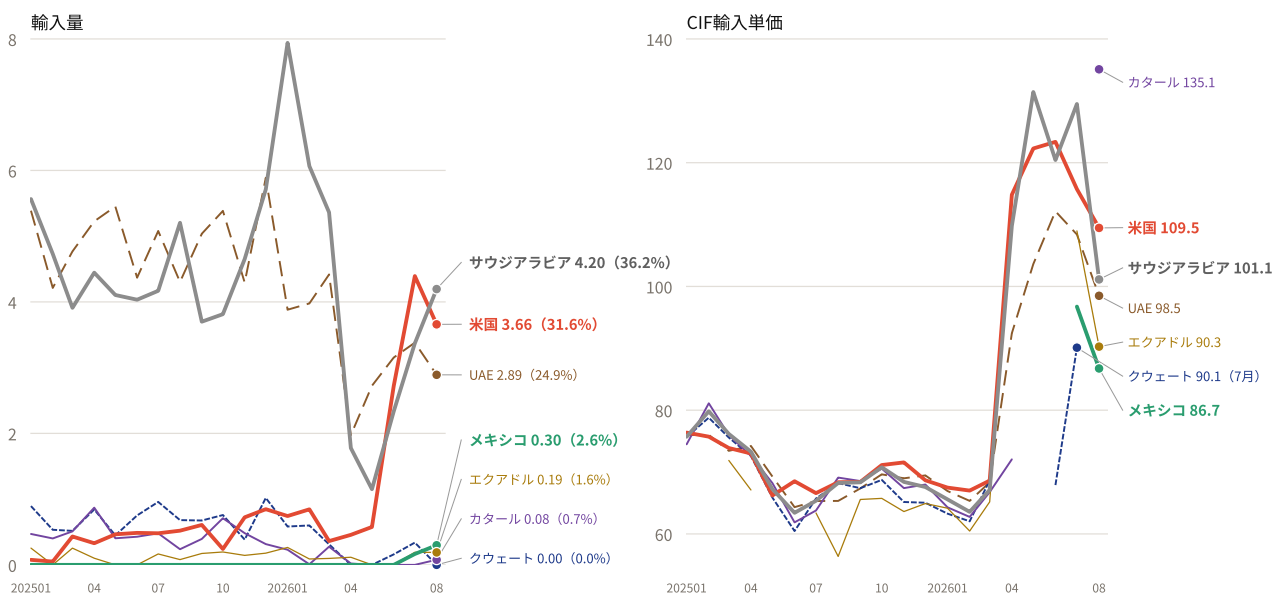
2026年8月、日本の原油輸入では、サウジアラビアが再び最大の供給国となる一方、米国も3割を超える高いシェアを維持した。ホルムズ海峡の航行制約が続くなか、サウジでは紅海側のヤンブー港などを利用した代替輸送ルートも活用されたが、9月にはこのルートも攻撃を受けるなど不安定性は残る。さらに、6月まで輸入実績のなかったメキシコが2.6%で第4位となり、エクアドルからの調達もみられた。CIF輸入単価をみると、中南米の新たな供給先からの調達は必ずしも高い価格を伴っていない。原油調達の複線化が進む一方、供給経路をめぐるリスクはなお大きい。

野村浩二・稲場翔（慶應義塾大学産業研究所）

2026年9月29日

2026年8月、サウジが首位に復帰、メキシコが新たに第4位へ

2025年1月-2026年8月における原油輸入量・輸入単価の相手国別推移（米国・湾岸諸国・中南米）



単位：百万KL（左図）、円/L（右図：CIF輸入単価）。出典：財務省「貿易統計」（2026年9月29日公表）。
注：原油はHS270900100、HS270900900の合計により定義する。左図内の数値は輸入量、括弧内は原油輸入総量に占めるシェアを示す。右図内の数値はCIF輸入単価。

エネルギーモニター | EM2608 慶應義塾大学産業研究所

エネルギーモニターについて

エネルギーモニター（Energy Monitor: EM）は、主要国のエネルギーコスト・需給および産業の動向を紹介するニュースレターです。分析は、エネルギーコスト・モニタリング（Energy Cost Monitoring: ECM）が毎月公表するECM Database、およびその基礎資料となる国内外の公的統計に基づきます。掲載する各指標は、基礎データの更新・拡充や推計方法の改善に伴い、今後改訂される場合があります。

リンク

エネルギーモニター
ECM Japan
ECM Dashboard

エネルギーモニターのバックナンバーおよびニュースレター配信の登録は専用サイト、ECM各種指標の国内動向はECM Japan、国際比較はECM Dashboardをご覧ください。